

100回を数えた松戸での「朗読と文学の会」(中)

人間は表現する動物である

前号(上)でも述べたが、「朗読と文学の会」には、「人間は表現する動物である」という一文から始まる宣言をもつ。文責、堀秋人であるが、その人物こそが、本会の創始者、堀川静雄氏である。文末では、「最高の形態は文学する姿である」と結んでいる。中段では「文の表現も掲げ余念がない。」

朗読と文学の会 宣言

人間は表現する動物である
表現せずして人間という存在はできない
恋文は愛を表現する書簡である
文学はその手段であり方法である
文学せずして表現に習熟することはできない
言葉を変えれば文学的表現はその人の思いであり主張であり思想であり哲学である
人間の最高の形態は文学する姿である

文責 堀秋人

さて、この冤罪事件の被害者、桜井昌司氏(ラム中)は取り上げた。同氏は殺人犯として29年間も収監された。後述する

具体的には、布川事件とい



文字と表現は人生を救う

筆者も、桜井氏とは3回は実際にお会いし、立ち話もした。⑧のコラムの副題を「獄中で發揮された「人間力」」としたが、桜井氏のかち得た原動力であった。獄中から支援者に、1万通を超える手紙や葉書を書いた。結果、獄中29年(仮釈放となり、事件後43年の2011年に、無罪判決を勝ち取った。

参加者紹介

前号で紹介した3名に続いて登場しているのが、遠路にも関わらず鎌倉から参加の鈴木克也さんである。エコ出版として書籍の刊行をしている。その情報のほか、鎌倉の話題を年齢が高い大きな声

次朗読を披露してください。朗読家・津田千代子さんである。津田さんは毎回、作家・窪川龍二さんの小説を窪川さん同席の場で朗読される。窪川さんも高知県の出身である。龍二の名前は龍馬に

で分かりやすく表現している。



続いて本多忠夫さんが登場する。小石川後樂園などの大名庭園を世界遺産に登録するための全国組織のNPOの理事長であり、その実現に向け、広域での理解とPRを努めている。その意義を語り表現する。本多という姓のとおり、本多忠勝の末裔であるという。



参加者には、高知県出身が多い。ジョン万次郎、坂本龍馬、樋口真吉など、高知県出身の有名人を史実に基づいて解説するのが中野正三さんである。中野さんは企業家でもあり、高知県の産業振興にも貢献している表現者。



『妄想列車』を続編としている。本会の関係者らしい人物がこの作品の中にも登場する内容でもあるよう、題名のように空想的自由奔放な内容で、幸せを導く小説となっている。そうした内容を月イチの朗読家の語りを目で確かめることができる朗読シリーズである。

1950年山形生まれ。

東京都立大院卒。元千葉大学院工学研究科准教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画(すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人洗楓座代表。一般財団法人「エココミュニアムいすみ」代表。



次朗読を披露してください。朗読家・津田千代子さんである。津田さんは毎回、作家・窪川龍二さんの小説を窪川さん同席の場で朗読される。窪川さんも高知県の出身である。龍二の名前は龍馬に

地元力発見!!

佐藤建吉 「洗楓座」代表

歌ったが、国家賠償やほかの冤罪者を救う活動をしている。その情報のほか、鎌倉の話題を年齢が高い大きな声

(続く)